



Contents

第3回定例会議(6月)審議議案	P2~3
一般質問	P4~8
通年議会が始まりました	P9
みなさんからの請願・陳情	P10
第3回定例会議議案等賛否一覧表ほか	P11
政務活動費	P12
頑張っている伊達な人	P13
全国市議会議長会表彰ほか	P14

※「ほっとだて」ロゴデザイン 保原高校美術部

伊達市議会
ホームページ



<http://www.city.fukushima-date.lg.jp/site/gikai/>

「頑張っている伊達な人」

(☆インタビューは13ページに掲載)

◆ 第3回定例会議(6月)議案審議 ◆

会議期間20日間 6月3日～6月22日

伊達市の

こんなことが決まりました

第3回定例会議の議案等は41件
報告……………5件
人事……………19件
条例の制定……………1件
条例の一部改正……………3件
補正予算……………6件
その他(議員発議を含む)……………7件
請願(継続審査を含む)……………4件
陳情(継続審査を含む)……………3件

この中から2つを **Pick up**

※全ての議案名と結果は、伊達市議会ホームページをご覧ください。



Pick up 1

伊達市有縁の「黒沢不動産株式会社」からの寄付により基金の設立

令和3年第3回定例会議(6月)において「伊達市農業成長産業化クロサワ基金条例」が議案提出され、可決されました。今回の基金の設立には黒沢不動産株式会社からの寄付金が当てられます。東京都に本社がある「クロサワグループ」のひとつで、グループは黒沢不動産株式会社・株式会社クロサワ・クロサワ育成財団からなっています。

保原工業団地内に1975年、黒沢通信株式会社(富士通株式会社と株式会社クロサワとの共同出資)は設立されました。世界最速の活字式プリンターや国産初の24ピンDOTプリンターなどを製造し、1985年に商号を富士通アイソテック株式会社に変更し現在に至っております。東日本大震災以降、毎年、伊達市のため寄付を続けており、具体的には、月舘学園の児童生徒にタブレットの寄付、保原小学校・桃陵中学校・松陽中学校校舎の窓ガラスフィルム工事のための寄付などがあります。

今回の基金は市の6次化産業の推進や若手農業者の育成など農業や農業に関連のある産業成長の用途で使わせていただきます。伊達市では現在、企業・団体から26品目の6次化商品が開発、商品化されており、地域振興やふるさと納税返礼品などへの期待が高まっています。

議会として長年にわたる支援に心から感謝するとともに適正な使用をしっかりと見守ってまいります。

Pick up 2

産業廃棄物中間処理場及び バイオマス発電施設建設に係る 反対決議と意見書の提出について

やながわ工業団地に建設予定のバイオマス発電施設については、不十分な住民説明だけでなく、産業廃棄物の廃プラスチック等を焼却することから、有害物質の発生による梁川地域住民への健康被害の不安等、様々な問題が懸念されます。

令和3年4月27日付で「梁川地域市民のくらしと命を守る会」より、産業廃棄物中間処理場及びバイオマス発電所建設計画の白紙撤回を求める梁川地域住民8,778名の署名を添えて市議会議長宛てに請願が提出され、全会一致で「産業廃棄物中間処理場及びバイオマス発電施設建設の反対決議と意見書の提出を求める請願について」を採択しました。そして、「産業廃棄物中間処理場及びバイオマス発電施設建設に反対する決議」をし、経済産業大臣を始め、資源エネルギー庁長官、東北経済産業局長、福島県知事宛てに伊達市議会議長名の反対趣旨の意見書を送付しました。

産業廃棄物中間処理場及びバイオマス発電施設建設に 反対する決議

去る4月27日、「梁川地域市民のくらしと命を守る会」から、梁川地域8,778名の反対署名が添付され、伊達市議会に請願書として提出されました。

我々議会は、市民を代表する機関であり、8,778名という反対は、大変重いものである。この数は梁川地域のほぼ半数であり、地域の方々がいかに不安に苛まれているのかを察知することが可能であります。

従って、伊達市議会は、全会一致で本決議を可決し、表記のとおり、産業廃棄物中間処理場及びバイオマス発電施設建設に反対いたします。

令和3年6月22日

伊達市長 須田 博行 様

伊達市議会議長 高橋 一由

決議書

※伊達市議会ホームページにも掲載しています。

やながわ工業団地に建設予定の産業廃棄物中間処理場の認可 及びバイオマス発電所の計画認定に関する意見書

2018年1月頃に福島県伊達市のやながわ工業団地の土地を事業者が取得した。その後バイオマス発電所計画の取り組みが行われてきたが、この事業者はバイオマス発電事業計画認定のガイドラインを無視し、住民に対する説明を行うことなく、計画は一方的に進められてきた。

当初は、他地域の多くのバイオマス発電のように、間伐材を燃料とする発電であるとの認識であったが、説明がないまま2020年5月13日に、国に計画認定されたことも住民は把握していなかった。それから2か月後の同年7月9日に、初めて口頭による説明会があり、計画認定がなされていたことを知ったのは2021年の年明けだった。

2020年7月9日の最初の説明会で、事業者はバイオマス発電だけの計画説明をして、産業廃棄物中間処理施設については説明がなかった。このときの参加者の質問で、建築廃材と廃プラスチックを燃料にするため、産業廃棄物中間処理場も建設・稼働することが判明した。

住民の間には、事業者がそれまで隠していた態度に不信感が高まり、住民の生活の安心・安全性にかかわる大きな問題であるという考えが強まった。

2021年3月18日の二回目の説明会では、さらに不安を煽るような一方的な説明に終わり、何ら参加者(住民)が納得できるような根拠を示さないことに、住民の不安と不信感が増幅して問題はさらに大きくなり、反対の声が挙がるようになった。

2021年3月24日に、住民及び関係団体が一九となって、「市民のくらしと命を守る会」を設立し、計画の白紙撤回を求める署名活動に取り組むことになり、現在まで8,778名の住民署名が行われている。

住民が自ら生活し、働く地域がいかにあるべきかは、住民の自己決定権に委ねられるべきことで、住民自治の基本と考える。これだけ多くの住民の意思は、地域住民の総意である。事業計画認定ガイドラインという国の制度に反し、住民からの信頼性に欠け、住民に寄り添うこともなく、当事者能力が疑われる事業者は、産業廃棄物中間処理・バイオマス発電の事業者としての資格に欠けると考えられる。

福島県伊達市梁川町住民の総意として、ご郵割を賜るよう強く希望する。
以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和3年6月22日

経済産業大臣	梶山 弘志 様
資源エネルギー庁長官	坂本 伸 様
東北経済産業局長	渡邊 政嘉 様
福島県知事	内堀 雅雄 様

福島県伊達市議会議長 高橋 一由

意見書

第3回定例会議(6月)

問Q 一般質問 答A

一般質問では9人の議員が登壇し、市政全般について論戦を展開しました。

一般質問議員と質問項目

■6月8日登壇

■近藤 眞一

1. 水道事業に関すること
2. 高齢者福祉、障がい者福祉に関すること

■池田 順子

1. 旧熊倉邸の現状と活用
2. 梁川総合支所庁舎のオープンスペースの利活用

■中村 正明

1. 新型コロナウイルス感染症
2. もうすぐ到来する雨期に備えを
3. 市民の声は届くか

■6月9日登壇

■八巻 善一

1. 東京電力福島第一原発事故に伴う損害賠償額等
2. 伊達市消防団の現況と今後の方策
3. 伊達市の既過疎地域（霊山町、月舘町）と新規過疎地域（梁川町）

■佐藤 清壽

1. 災害復旧と新たな地域防災
2. 新型コロナウイルス感染症対策

■菅野 喜明

1. 伊達市の公共交通の未来
2. 伊達市の有害鳥獣対策
3. 伊達市のふるさと納税と電子マネーによる納税

■6月10日登壇

■池田 英世

1. 「誰一人取り残さない」SDGsなまちづくり

■丹治 千代子

1. ジェンダー平等社会
2. ICT教育の現状と今後のあり方
3. 石田小と小国小の掛田小学校への統廃合

■佐藤 栄治

1. 保原認定こども園の建設工事入札
2. 東北中央道建設に伴う伊達市市道の損傷・復旧

※一般質問の方の欄にQRコードが掲載されています。スマートフォンなどで読み取っていただきますと、録画映像にアクセスできますのでご活用ください。



近藤 眞一

■障がい者の公共施設利用料減免を



Q 障がい者の公共施設利用料はどのようなになっているのかお示しください。

A 伊達市保原町歴史文化資料館の1施設のみ、観覧料の減免を規定しておりますが、他の公共施設は規定がなく減免を行っていない状況です。

Q 障がい者と介助者とも公共施設の利用料は免除にするべきと考えますが、見解をお示しください。

A 市の福祉に関する方針、計画等を考慮し、また、福島県近隣自治体の状況も参考にしながら、実施に向けた検討を進めたいと考えています。

■特別支援学校の通学支援を

Q 市内に来年年度開校予定の特別支援学校の通学に、市内在住の児童

生徒も通学支援のバスを利用できるようなするべきと考えますが、見解をお示しください。

A 今後、設置者である県教育委員会が課題等を取りまとめて対応するものと考えます。市としては、県の支援学校のバス運行方針を見ながら検討したいと思っています。

■安定した水道事業の継続を

Q 水道事業の継続に必要な水道技術管理者の育成や、技術の伝承をどのように図っていくのか、見解をお示しください。

A 水道事業は基本的なインフラで、安全・安心な水を市民に届けることが市の責務だと思っています。技術的な事業、仕事で、技術を確実に継承していくことが重要で、水道技術管理者の重要性は認識しております。専門性が高いことから、異動についてはそれをしっかり考慮した上で検討していくようにします。現場の中で事業を覚えていくということを職員には徹底させたいと思っています。ジョブトレーニングの中で技術・知識を覚えるということを進めていきたいと考えています。



■旧熊倉邸の現状について



池田 順子

Q 平成29年6月5日に伊達市が寄附受納した旧熊倉邸は、4年を経過した今、現状は全く知られていません。土地、建築物の規模及び歴史的資産の評価について伺います。

A 宅地が約350坪です。建物は、居宅が鉄筋コンクリート造3階建てで266・63㎡、倉庫が2階建ての土蔵で72・86㎡、物置が木造平家で22・76㎡です。また、令和元年には国登録の有形文化財に登録されました。

Q 寄贈者の押味氏は「熊倉邸を市勢伸展のために活用して欲しい」と述べています。市は「歴史的建造物として原形のまま保存、活用を図り梁川歴史観光と繋げる」と答えているにも関わらず、市民に公開せず、敷地内は雑

草で埋め尽くされた現状は、押味氏に対し失礼であり、文化財保護法の目的である保存と活用、ともに問題があると思いますが、見解を伺います。

A 令和元年に東日本台風が発生し、職員が片付けましたが、今年2月13日の福島県沖地震でもまた被災しました。復旧をしっかりと行い、適正に管理したいと考えます。

■やなピア(梁川総合支所2階に整備したオープンスペース)の活用の方は？

Q 市の梁川総合支所改修事業への取り組みの努力は推察しますが、やなピア内の子供はぐなレイアウトや家具等の設置は、利用目的が定まらない現状での机上の計画と指摘せざるを得ません。もっと市民の参加を推進し、声を聞き、反映する行政を強くお願いします。

A 入手先は、蔦屋書店を運営している事業者からです。費用は市の予算を執行し、図書は入替えではなく、年に3〜4回のペースで増やしていく考えです。

また、図書の入手先及び入替の頻度、費用について伺います。



■市民の声は届くか



中村 正明

Q 住民代表の「梁川地域市民のくらしと命を守る会」は、去る5月19日、伊達市やながわ工業団地に計画されているバイオマス発電所と産業廃棄物中間処理施設について、計画の白紙撤回を事業者に求めるよう市長に陳情し、8、956人分の署名を提出しました。また、建設工業新聞によると、事業者は発電プラント等の施工者を三菱重工交通建設エンジニアリングに決定。11月頃の着工予定で2023年6月頃の施設完成、同年9月頃の稼働開始を目指す、と報道されています。このような現状に対しての市の所見を伺います。

A 市民の安全を確保する観点から、4月28日に設置しました庁内会議において、各部署との連携と情報共有を図りながら適切に対応してまいります。

Q 「市民の理解を得られない場合、市はどうするのか」ということを令和3年3月定例会の一般質問で伺いました。市長は「仮定の話は現時点では答えられない。今後予定されている3月18日の説明会で市民の皆様を理解していただけるかどうか、その中で判断したい。」と述べています。しかし事業者は市民の理解を得て、安全を担保する説明もなままに計画を進めています。どのような判断をされたのか市長に伺います。

A 市民の皆様が大きな不安を持たれているということは、しっかりと市としても受け止めております。現在、梁川地域市民のくらしと命を守る会と市側の考えを合わせた質問状を事業者に送っております。説明会において事業者にしっかりと回答を求めてまいります。その上で、庁内会議において、法的、科学的根拠に基づいているかどうか精査し、市としての意見を述べさせていただきたいと思っております。



■過疎地域に霊山、月館地域と、新たに梁川地域も指定へ



八巻 善一

Q 本年4月から梁川地域が過疎地域に指定された経緯を伺います。

A 新しい過疎地域自立促進特別措置法が4月から施行され、それに伴う人口要件、基準等の見直しにより旧梁川町の人口減少率がその基準を満たしたため、過疎地域となりました。なお、霊山、月館地域も新法の基準で改めて該当しています。

Q 過疎地域の今後の方策について伺います。

A 必要な事業については過疎計画にのせて、過疎債の活用が必要と判断したものについて過疎債を、後の申請については県と協議します。今後の梁川、霊山、月館地域の過疎対策事業は全庁的に照会等をし、内部調整を図って計画策定する考えです。令和

4年度からの過疎債の活用を目標として、12月に議会への上程を予定しています。

■伊達市消防団の現況と今後の方策は

Q 伊達市消防団の団員確保を含めた対策を伺います。

A 令和3年4月1日現在で、定数1,515人に対して現員数は1,135人で充足率は74.9%となっております。地域により防災力の維持が困難になりつつあります。今年3月に伊達市消防団再編計画を策定しました。

Q 団員の確保に向け、総務省消防庁の「消防団員の処遇等に関する検討会」が開催され中間報告が公表されていますが、市の見解を伺います。

A 消防庁の「消防団員の処遇等に関する検討会」は、中間報告及び消防庁長官通知では、出勤手当1日当たり7,000円から8,000円、団員報酬年額3万6,500円と示されていますが、これに基づいて、他市の状況を調査し、適切に対応する考えです。また、団員への直接支給については、本年度上期分を9月末に団員個人の口座に振り込みます。

■災害復旧と新たな地域防災の考えを問う



佐藤 清壽

Q 令和元年東日本台風（台風19号）に係る公共災害復旧工事で見落とした災害箇所や時間経過で崩落が拡大した箇所が出ております。見落とした箇所の復旧工事の対処方法と、本市の公共災害復旧の進捗を伺います。

A 見落とした災害箇所などは改めて現地を確認し、必要に応じた対応をします。道路災害は、復旧箇所31か所のうち、令和2年度末までに28か所を完了しております。残り3か所は、令和3年度末の完了となっております。河川災害の復旧箇所は33か所で、全ての工事の契約は完了しており、現在、鋭意工事を進めております。完了箇所はまだございませんが、全ての工事について、令和3年度末の完成を予定

しております。

Q 県管轄で、河川災害の主な復旧箇所になる塩野川改修の進捗状況と復旧工事完了予定日を伺います。

A 被害が甚大であった塩野川は、令和2年度末時点で、国道349号の塩野川橋と上流の南町谷川橋の間の、右岸側（河川を上流から下流に向かって見た場合の右側）の災害復旧による大型張りブロック工と阿武隈川本川と同じ高さのコンクリートの壁で洪水を防ぐ工事が併せて完了しました。国道349号の塩野川橋架け替えの予備設計も完了し、本年度は、塩野川橋と南町谷川橋間の左岸の工事に着手しております。また、南町谷川橋とその上流の天神橋の工事の発注を進め、令和6年度の工事完了を目指すと聞いています。

Q 毎回同じ場所に同じ災害が発生しております。原状復旧が完了した後の減災工事の施工を伺います。

A 災害が発生しやすいところは、市の通常の管理の中でも対応は可能な箇所もございますので、対応していきたいと考えております。

Q 災害が発生しやすいところは、市の通常の管理の中でも対応は可能な箇所もございますので、対応していきたいと考えております。



■イノシシ対策の電気柵の予算増額へ！



菅野 喜明

Q 有害鳥獣の侵入防止柵等への補助制度が「3戸以上でのまとまりのもの」、「営業再開支援事業」、「単独での申請」の3種類ありますが、最高でどれくらいの年数を待った農家がいるか伺います。

A 現在、3戸以上でのまとまりでの申請は45件ありますが、補助できるのは10件程度のため、最長で3年間待っている農家があります。

Q この制度の予算は、平成30年度には、340万円ありましたが、令和3年度には、241万円と100万円ほど減っています。財政が大変厳しいことは重々承知していますが、市長のご見解を伺います。

A 鳥獣被害の増加により、耕作放棄地も

年々増えています。まずは、鳥獣被害を防止することが非常に重要です。予算は今後しっかりと確保するように努力してまいります。

■中山間地域の通学支援を問う！

Q 令和元年9月定例会で、福島交通の路線バスの交通費の上限について差異があることを質問しました。霊山、月館地域の高校生の通学費が過大になり、進学を機に引っ越す方もいるとの話もしました。今年度の霊山、月館地域の小学校の入学人数は39人です。市長の選挙公報に「均衡ある発展を遂げる伊達市、都市と農村の均衡が取れた田園都市、伊達の創造」と書かれています。なかなか難しい問題と思いますが、通学費のことなど地域になかなか子育てする環境が整わないという声に対して、市長の考えを伺います。

A バスの料金に関して考えなければなりません。また、地域に若い人が定住しなくなり、子どもたちが少なくなっていることも事実です。それについては別な施策の中で考えなければならぬと思っています。



■「誰一人取り残さない」*SDGsなまちづくりを



池田 英世

Q 市は食品ロスの調査を行っているのかお示しください。

A 農林水産省と環境省によると平成30年度の推計で、事業系で324万トン、家庭系で276万トンの合計600万トンとされています。現在伊達市では調査は実施していません。

Q 給食の残菜量と処分法についてお示しください。

A 年間量で、中央給食センターの15・2トン（脱水済）は焼却処分します。伊達給食センターは10・4トン（無脱水）で後に肥料として再利用します。

Q 食品ロス削減月間や事業者と消費者のマッチングサービスを提案します。市長の見解をお聞かせください。

A 食品ロスの削減は、SDGsにおいて国際的にも重要な課題です。提案いただいた未利用食品の提供支援活動は、市の食品ロスの実態、事業者等の意向調査をして先進事例を調査、研究します。

Q ワクチンの第1次接種申し込みでは4%がアナログ（電話予約）で、96%がデジタル（ウェブ予約）だった現実があります。インターネットを使えない高齢者でも、必要な情報に容易にたどり着ける市独自の行政アプリケーションを導入すべきだと思います。

A デジタルの優位性が圧倒的に分り、デジタル化を進め、市民の皆さんが取り組める環境作りが必要だと思っております。行政情報のアプリケーションを1つにまとめるというのは、大変いいことだ思っております。

Q タブレットが全校に行き渡った今、いじめ相談のアプリケーションを導入すべきと考えます。

A タブレットは、導入しただけでは、まずは学力向上のために活用し、いじめ相談のアプリケーションについては各自自治体等の事例を研究していきたいと思えます。

*SDGsとはサステナブル、デベロップメント、ゴールズの略で、「エス・ディー・ジーズ」と読みます。持続可能な開発目標を意味します。



ICT教育の現状と今後のあり方は



丹治 千代子

Q 昨年の新型コロナウイルス感染症による全国一斉休校を受け、情報通信技術（ICT）教育を推進する「GIGAスクール構想」が進んでいますが、伊達市内のICT教育の現状について伺います。

A 市のICT教育の現状は、GIGAスクール構想においてタブレットが配置になり、併せて学校での大容量ネットワークが一体的に作られました。これを活用して、4月からICT教育をさらに進めているところです。タブレットの利用については、授業の中でタブレットを活用して、有効な授業の構築をしています。また、市のICTスタンダードというチラシを作って、全小中学校に配布して統一を

図っています。ICT教育の運用支援では、5人の支援員を巡回形式で配置して、タブレットの管理・授業のサポートを行い、トラブル等についてはコールセンターを設置してサポート体制を整えています。

Q 今後のあり方について伺います。

A 現在は授業での有効な活用が中心ですが、秋からは家庭での活用（タブレットの自宅への持ち帰り）ができるように考えています。

Q 親や保護者の経済力の格差で子どもの学力や将来まで決まってしまうとも言われておりますが、この格差について市のお考えを伺います。また、格差をなくすための方策について伺います。

A 家庭の経済力によって、子どもの学力格差が出てくることがあるかとは思いますが、市内において、全てがそのような状況になっているかどうかは確認されていません。子どもの学力格差の原因は、経済格差だけでなく、大人の養育、保育の仕方にも原因があるのではないかと思われれます。



佐藤 栄治

保原認定こども園建設入札について



Q 今年2月に行われた認定こども園の入札結果についてお尋ねいたします。

A 保原幼稚園の園舎が老朽化しており、その建て替えが必要なことから、運営事業者・社会福祉法人嘉啓会が7者を指名し、2月17日に入札執行しました。3度の札入れを行いました。3度の報告を受けております。

Q 今後の再入札の予定はどのようなものかお伺いいたします。

A 令和3年度に改めて国庫補助申請を行います。交付決定後に再度入札に向けた準備を進め、現時点の予定としては7月末から8月にずれ込む予定となっております。

Q 伊達市の工事等の請負契約に関わる規則等が民間工事でも適用されるのか伺います。

A この工事につきまして、は、県から、民間整備事業であっても国庫補助金を活用するので、施工業者の決定については市町村の入札に準じた形で公平に実施していただきたいというのを申し添えられております。

Q 本当に来年の4月に開園できるのかをお尋ねします。

A 標準工期で12か月程度です。8月中ぐらいに着手するような運びで進むと、4月の開園はなかなか難しいと考えられます。事業者とも現在協議をしており、速やかに開園できるように準備が整い次第、市民の皆様に向けた準備を進めたいと思っております。

5月14日、招集会議が開催され、 通年議会が始まりました

伊達市議会は、令和3年5月から通年議会制を導入しました。

議会が活動できる期間（開会から閉会までの期間）を「会期」といいます。

通年議会は、会期を年1回とし、5月から翌年4月までの約1年間とする議会です。

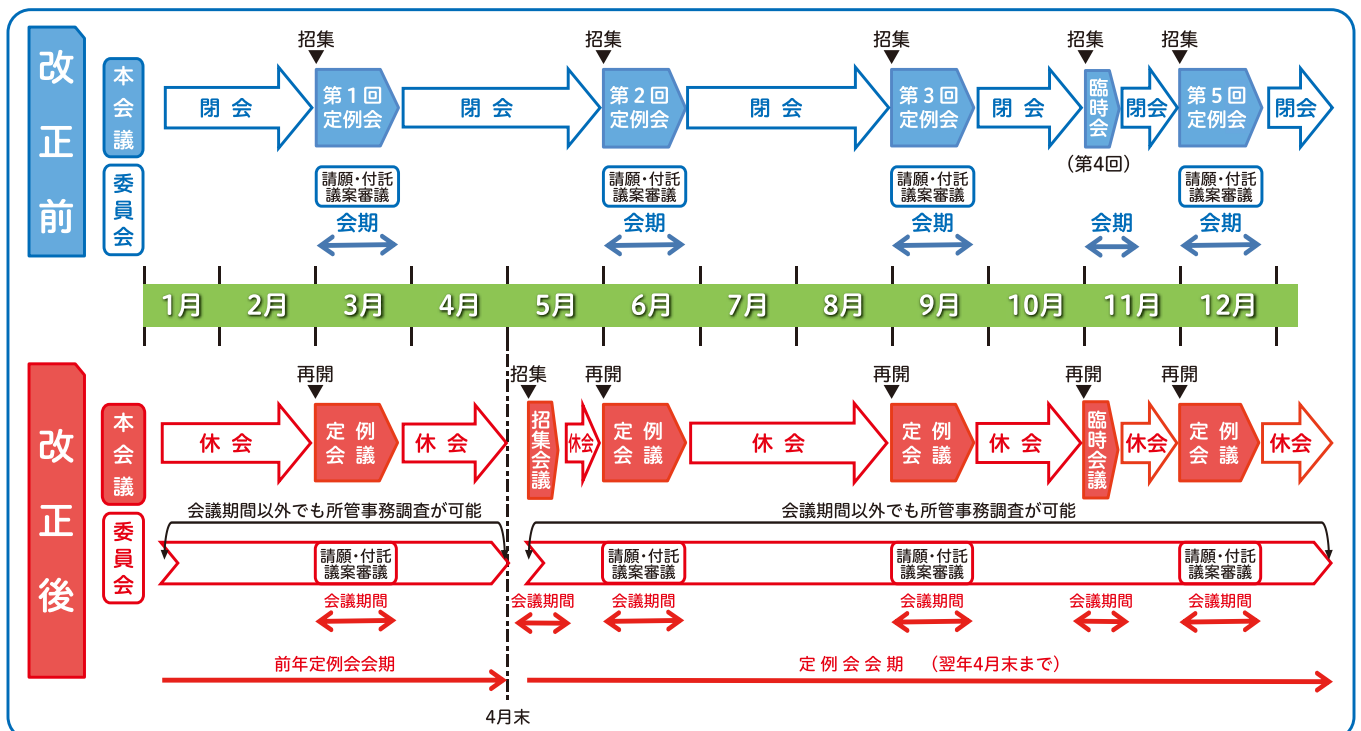
これまでの会期は、年4回の議会定例会や議会臨時会の期間と定めら

れ、議会が閉会した後は、次の議会の会期まで常任委員会等の正式な活動などはできませんでした。

（※協議会・議会報告会・本会議において閉会中の活動について議決された委員会活動を除く）

伊達市議会は、会期を通年とし議会が常に活動できる状態とすることで、災害時などの突発的な事案にも迅速な対応が可能になるなど、市民の皆さんの期待に添える議会運営の推進を図ります。

伊達市議会 通年議会のイメージ図（※臨時会議は必要に応じて開催します）



みなさんからの請願・陳情

令和3年第3回定例会議（6月）で受理したのは、請願2件、陳情1件でした。

所管の委員会に付託して審査し、委員長が本会議に審査結果を報告、採決の結果、次のとおり決まりました。

なお、第2回招集会議（5月）で継続審査となっていた請願2件、陳情2件についても、今回次のとおり決まりました。

受理番号 受理年月日	請 願 件 名	付託委員会	結 果
第2号 令和3年4月27日 (継続審査)	産業廃棄物中間処理場及びバイオマス発電施設建設の反対決議と意見書の提出を求める請願について	総務生活常任委員会	採 択
第4号 令和3年5月11日 (継続審査)	箱崎東地区計画の決定時の内容に沿った計画の履行を求める請願	産業建設常任委員会	取下承認
第5号 令和3年5月20日	地方財政の充実・強化を求める意見書提出の請願について	総務生活常任委員会	採 択
第6号 令和3年5月24日	トリチウムなどの放射性核種を含むALPS処理水の海洋放出方針決定の撤回を求める意見書の提出を求める請願	総務生活常任委員会	趣旨採択

受理番号 受理年月日	陳 情 件 名	付託委員会	結 果
第1号 令和3年5月10日 (継続審査)	伊達地域まちなか事業（仮称）「マノマ」新築整備事業に関する陳情書	総務生活常任委員会	趣旨採択
第2号 令和3年5月10日 (継続審査)	伊達地域まちなか事業（仮称）「マノマ」新築整備事業に関する陳情書	総務生活常任委員会	趣旨採択
第3号 令和3年5月14日	コロナ禍を克服し、国民のいのちと健康を守るための陳情書	文教福祉常任委員会	採 択

第3回定例会議(6月)賛否一覧表

※これ以外の案件等は全会一致で可決されています。

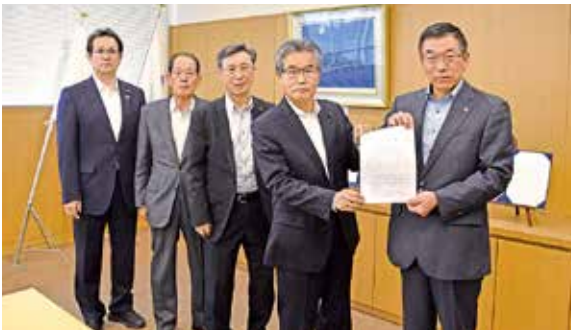
議決結果	議案等																議員名				
	賛成・反対			無党派			フォーラム伊達			[きょうめい]			創志会			伊達市民クラブ			共産		
賛成16・反対3	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	近藤 眞一
趣旨採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	佐藤 清壽
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	池田 順子
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	小野 誠滋
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原田 建夫
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	菊地 邦夫
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	伊東 達朗
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	大和田俊一郎
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	佐藤 実
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	安藤 喜昭
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	菅野 喜明
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	丹治千代子
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	八巻 善一
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	池田 英世
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	佐藤 直毅
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	大條 一郎
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	小嶋 寛己
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	佐藤 栄治
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	中村 正明
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	半澤 隆

※議長(高橋一由)は採決に加わらない
※会派名の省略 共産↓日本共産党伊達市議団

農産物の凍霜害等の対策についての要望

本年4月中旬にかけて伊達市をはじめ県北地方は最低気温が氷点下2℃〜5℃となり、発生した降霜により果樹・野菜に大きな被害がありました。モモ、カキなどでおよそ9億円を越す被害が発表されました。昨年モモ穿孔細菌病の被害が出たこともあり、令和元年東日本台風(台風19号)から毎年のように打撃を受け、安心した営農を脅かす事態となっています。農家を守り生産意欲向上に向けた支援の「要望書」を次のとおり産業建設常任委員会でまとめ、議長から市長へ提出しました。

- 1、甚大な凍霜被害の詳細な実態把握を早急に行うとともに、被害を被った農家に対し、その支援対策の方向性を示すこと。
- 2、食品ロスをなくす観点からも降霜被害を受けた規格外の果樹の販売ルートや利用先を確保すること。
- 3、樹勢回復のための土壌改良剤・農薬・肥料・改植費用等被害による追加経費について負担軽減を図ること。
- 4、多岐にわたる防霜材や防霜ファンなどの設備投資の自己負担に対する必要な支援を速やかに行うこと。
- 5、営農継続のため災害対策資金等の借入れ利子に対する補給を行うこと。
- 6、「モモ穿孔細菌病」など近年相次ぐ農産物への被害が続いていることから、早急な特效薬の開発を国や県に強く要望するとともに台風、集中豪雨など自然災害に対して営農継続のため農業経営の収入保険や共済制度の普及啓発を積極的に行うこと。



令和3年5月27日、議長より市長へ要望書を手渡しました。(後列右から菊地副議長、八巻産業建設常任委員長、池田副委員長)

議会だより「ほっとだて」に広告を掲載しませんか

1回あたりの広告料

縦45ミリ×横87ミリ 11,000円
縦45ミリ×横180ミリ 20,000円

広告料は議会だより発行の財源になります

お店、会社、イベント情報等の紹介に!

掲載については、議会事務局(電話575-1217)にお問い合わせください。

※このスペースは有料広告です

『公表します 政務活動費』

本市では、議員の調査研究その他の活動に必要な経費の一部として、議員一人当たり月額3万円の政務活動費を所属の会派（会派に所属しない場合は議員）に交付しています。

その収支については、毎年度議長に報告し、残額がある場合は、市に返還しています。

令和2年度の収支状況は次のとおりですが、収支報告書の内容については市議会ホームページにも掲載しています。

また、9月以降、収支報告書の写しは議会図書室で閲覧できますので、議会事務局までお問い合わせください。

令和2年度 政務活動費精算一覧表

(単位：円)

会派名	フォーラム 伊達・公明	「きょうめい」	日本共産党 伊達市議団	創志会	伊達市民 クラブ	無会派	無会派	無会派	合計	
会派構成	大條 一郎 池田 英世 佐藤 直毅	八巻 善一 菅野 喜明 丹治千代子	佐藤 清壽 近藤 眞一	佐藤 実 伊東 達朗 大和田俊一郎 安藤 喜昭	小野 誠滋 池田 順子 原田 建夫 菊地 邦夫	佐藤 栄治	半澤 隆	高橋 一由		
収入内訳	交付額	1,080,000	1,080,000	720,000	1,440,000	1,440,000	360,000	360,000	360,000	6,840,000
	利子	5	4	1	10	9	0	1	2	32
会派の収入合計		1,080,005	1,080,004	720,001	1,440,010	1,440,009	360,000	360,001	360,002	6,840,032
支出内訳	研修費	191,430	5,000	0	0	0	0	0	0	196,430
	調査研究費	8,640	0	0	9,210	0	58,140	0	0	75,990
	要請・陳情 活動費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	会議費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	資料作成費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	資料購入費	93,280	154,620	0	9,972	5,817	86,879	29,772	4,220	384,560
	広報費	252,723	17,964	697,763	23,948	23,948	5,987	5,987	160,680	1,189,000
	広聴費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	事務諸費	56,554	283,467	15,192	60,768	60,768	110,719	37,655	124,200	749,323
	その他の経費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会派等の支出合計		602,627	461,051	712,955	103,898	90,533	261,725	73,414	289,100	2,595,303
収支差引額 (市への返還額)		477,378	618,953	7,046	1,336,112	1,349,476	98,275	286,587	70,902	4,244,729

※1 無会派 小嶋寛己議員、中村正明議員は、政務活動費の交付申請を行っていないため、掲載されておりません。

【政務活動費使途基準】

研修費	・研修会・講演会の開催に要する会場費、講師謝金等の経費 ・研修会・講演会の参加に要する会費、旅費等の経費
調査研究費	・先進地調査又は現地調査に要する旅費、調査委託に要する経費
要請・陳情 活動費	・要請・陳情を行うために要する旅費、印刷製本費等
会議費	・会派（会派に所属しない議員）が行う会議の開催に要する会場費 ・他の団体が開催する意見交換会等会議の参加に要する会費、旅費等の経費
資料作成費	・会派（会派に所属しない議員）が行う活動に必要な資料の作成に要する印刷費、写真代、消耗品等の経費
資料購入費	・会派（会派に所属しない議員）が行う活動に必要な新聞、図書、雑誌等の購入費
広報費	・調査研究活動・議会活動及び市の施策等の広報活動に要する印刷費、会場費等の経費
広聴費	・市民からの市政に対する要望・意見を聴取するための会議開催に要する会場費、資料印刷費等の経費
事務諸費	・パソコン等の事務機器リース・購入、事務消耗品等の購入、通信等に要する事務経費
その他経費	・上記以外で会派が行う活動に必要な経費

「頑張っている伊達な人」

今回の「頑張っている伊達な人」は読者から「95歳で、現役で仕事を頑張っておられる鉄人を紹介していただきたい」との連絡があり、インタビューに伺いました。

酒井 惟恵（これしげ）さん 大正14年9月生まれで専業農家、林業も行っている方です。

登米郡や栗原郡や遠くイタリ
アへも輸出していました。

19歳のとき会津若松の連隊
から、近衛歩兵第1連隊第6
中隊に行きました。戊辰戦争
で福島の人を賊軍だったの
で、よくて第2連隊。普通は
第3連隊にしかいけなかった
のです。

伊達郡から12人第1連隊に
入隊しましたが、今は自分し
か生き残っていません。

故池田善治さん（元梁川町
長）とは、20代からの付き合
いで、彼が梁川町の青年団長、
自分が石戸村（現伊達市霊山
町）の青年団長をしていまし
た。県議会議長や町長になら
れて本当に良かったです。私
の家によくおいでいただきま
した。

●バイクに今でも乗っている
とお聞きしましたが。

◆まだ霊山町山戸田地区で4
人しか免許を持っていない頃
からです。9月に高齢者講習
を受けて、免許を更新する予
定です。更新すると99歳ま
で乗れます。自動車の免許

は、祖父に許可されなかった
のですが、バイクの免許を取
り、こっそり乗っていました
（笑）。昔は、後ろに人を乗せ
て、戦友名簿を作るため、メ
グロ500というバイクで県
南を回ったことがあります。



●畑はどれぐらいお持ちです
か。

◆畑は、40a。水田は、30a。
ワラビ畑は、30a持っています。
●山の木の伐採もしていると
聞きましたが。

◆山の木は今も切っていま
す。チェーンソーも持って
いて、風呂焚き用の薪を作っ
ています。今まで図面と木割表
をもらって一戸建ての家54軒
分の木を切ってきました。自
宅も23年前に自分で切った材
木で、大工さんに建ててもら

いました。

●お元気ですね、とても95歳
には見えないのですが。

◆おかげさまで元気ですね。
人生で一回、48歳のころに、
黄疸が出て急性肝炎で50日入
院しました。近所の小川のし
じみ汁を飲んで治しました。

山仕事をしていたので、ケガ
をたくさんしました。太もも
をチェーンソーで切って出血
多量で意識が遠のいたことや
左手の人差し指にチェーン
ソーが当たったり…。骨の一
部が残ったので、指はありま
す（笑）。

●毎日の生活について教えて
ください。

◆祖父に教育を受けました。
長男は家を守れと。17歳から
農業をやっていて、戦争の1
年間だけ兵役を務め、休んだ
時を除いて、ずっと現役です。
日常生活することは、決まってい
ます。朝は、納豆や生卵で朝
食をとり、畑で働きます。昼
飯を食べて、昼寝をし、午後
も働きます。よく食べ、よく
働き、よく寝るようにしてい

ます。疲れを起こして、はん
び（半日）くらい休むときも
ありますが、そのまま受け入
れて決して悔しがってはいけ
ません。いわゆる晴耕雨読の
生活をしております。

●伊達市や霊山町は好きです
か？

◆はい。都会に出ると人が多
いので、気疲れします。昔、
近衛連隊で東京にいた時、見
渡すかぎりの焼け野原を見た
時に一番心が疲れしました。

●これからの人に言いたいこ
とはありますか？

◆今の若い人たちには、もう
少し自分のことを見つめて、
故郷に想いを馳せてもらいた
いです。世の中何でもあり、
モノがあふれているからなの
ですかね。年配者のいうこと
を聞かないのはどうかと思ひ
ます。コロナ禍でも飲み屋に
行って、さらに路上でも飲ん
でいてだらしないと思ひま
す。自由と勝手を間違ってい
るのかな…。若い人には家族
のいるふるさとをもっと好き
になっってもらいたいです。

●広報委員 略歴をお聞かせ
願いますか。

◆酒井さん 霊山生まれで私
は4代目です。家業は蚕種を
作っていました。父は、私が
少年時代に出征し帰ってこな
かったため、祖父は蚕業学校
出身でしたが、私には同じ学
校には進学させないで家の仕
事を命じました。つらかったの
で、山が学校でした。

（この蚕種は主に、宮城県

議員逝去のお知らせ



令和3年6月18日、病氣療養中でありました原田建夫議員が逝去されました。

平成12年3月に初当選（梁川町議会議員）され、伊達市合併後、伊達市議会議員として連続5期21年余にわたり、地域振興と地方自治の確立、伊達市勢の伸展にご尽力されました。市民の代表として常に住民の声に耳を傾け、市民の福祉向上のため、献身的な努力を注がれました。また、在籍していた産業建設常任委員会の委員として、農業振興の分野でもご尽力され、伊達市政の推進にその一生を捧げられました。

謹んで故人のご冥福をお祈りいたします。

伊達市議会議員一同

全国市議会議長会の特別表彰、一般表彰を受賞しました

第97回全国市議会議長会定期総会（※新型コロナウイルス拡大防止対策のため書面開催）において、地方自治の発展に寄与した功勞により、本市では、八巻善一議員（議員在職20年以上（特別表彰））、小野誠滋議員（同15年以上（一般表彰））の2名が表彰されました。



左から、菊地邦夫副議長、小野誠滋議員、八巻善一議員、高橋一由議長

編集後記

近年、東日本大震災をはじめ、未曾有の大水害、さらに遅霜による甚大な農作物の被害等、大規模自然災害に遭遇する中、その復旧・復興をまるで妨げるかのように新型コロナウイルスの蔓延に脅かされ、ともすれば希望や夢を見失うような失意・失望を感じた人は少なくないと察します。日本は先の大戦で国土は焦土と化し、敗戦国から世界に誇る経済大国、平和国家を築き上げた輝かしい歴史があります。この歴史は先人が築いた血と汗の結晶の賜物と私は思っています。今を生きる私たちには、先人が築いた歴史を守りさらなる努力を以って次の日本を担う青少年に「平和と繁栄」を引き渡す責任があると思います。私自身認識を新たにするとともに、愛するふるさと「伊達市」に尽力された同志・先輩議員であった故原田建夫さんの靈に堅く誓い、編集後記といたします。

議会広報委員会

委員長 池田英世
副委員長 伊達達朗
委員 池田東
委員 小嶋寛己
委員 佐藤栄治
委員 池田順子
委員 菅野喜明

池田（順）

本紙は読みやすいUD（ユニバーサルデザイン）フォントを使用しています。